

# 同志社大学FDワークショップ 「科目ナンバリングの作成」

2013年11月25日(月)13:00~17:00

同志社大学京田辺キャンパス

田中正弘(弘前大学)

# 目次

- ・ 科目ナンバリング制度の目的
- ・ 科目ナンバリングの学内統一ルール(仮)
- ・ 教育プログラムの体系化への活用
- ・ ワークショップのスケジュール

# 科目ナンバリング制度の目的

# 科目ナンバリング制度の目的

- 文部科学省の「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」(平成24年6月5日)や、中央教育審議会(大学分科会)の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(平成24年8月28日)などの改革案への対応の一環として、科目のナンバリング制度の導入を検討する。

# 科目ナンバリング制度に期待する効果

- 期待する効果
  - 授業の**学問分野**や**難易度**、**位置づけ**が明確になるように、各科目に番号を振ることで、**学士課程の科目全体を**、課程・専攻ごとに**体系化**できる。
    - カリキュラム・ツリーの作成で、科目の連関を可視化できる。
  - (他学部・学科や他大学の)学生が、学問分野や難易度に応じて**授業を選びやすくなる**。
    - WEB上で学問分野と難易度を入力すると、対応する科目の一覧が表示されるシステムがあると、便利である。
  - 国内外の大学との**単位互換**が容易になる。
    - ただし、学問分野や難易度の分類のルールが統一されていないと、利用しにくい。

# 科研の細目表の利用

- 学問分野の分類方法として、日本学術振興会の科学研究費助成事業の細目表を用いる。
- 科研の細目表を用いる理由：
  - 学問分野の分類方法として、大学教員の同意を得やすい。
  - 学問の発展を加味して、5年10年ごとに、分類が見直される。
    - カリキュラムの更新が促される。
  - 学問分野が英訳されている。
  - 「研究と教育の統合」(大学教員は自ら研究している最新の情報を咀嚼して学生に教授するべきだ)の観点から、科目の内容を見直せる。

# 科研の細目表を用いる利点・欠点

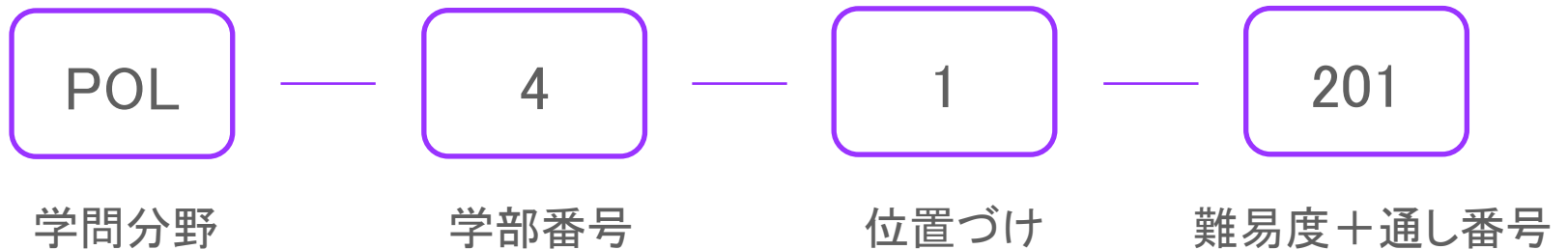
- 学生が学問分野を意識して授業を受けることは、望ましいことだと思われる。
  - 対象が同じでも、分野が異なればアプローチが異なることもあるため、その差を意識して授業を受けることは重要である。
- とはいえ、研究活動のための学問分野の分類方法は、学生には分かりにくいこともある。
  - 物理分野の「物性Ⅰ」、「物性Ⅱ」など、
- 総合的な科目は、細目では細かすぎることもある。
  - 分科レベルで表記することも認める。

# 科目ナンバリングの 学内統一ルール(仮)



# 科目ナンバリング制度の学内統一ルール

- 科目ナンバリングは、下記のルールに従って実施する。
  - 例：「政治学 I」の科目ナンバーは、POL-4-1-201



# 学問分野(1)

- 科目の学問分野は、科研の細目表の分類を参照する。
  - 例：政治学(3701 Politics), 代数学(4701 Algebra)
  - ただし、該当するものがなければ独自に分類を作成する。
    - 例：科目「ゼミナール」, ゼミナール(Seminar, SEM)
    - 例：科目「卒業研究」, 卒業研究(Thesis, THE)
- 学問分野を表すアルファベット三文字の作成ルール
  - 例1：日本語教育(3204 Japanese Language Education) ⇒ JLE
  - 例2：細胞生物学(6705 Cell Biology) ⇒ CEB (最初の語から2文字, 最後の語から1文字をとる。)
  - 例3：脳神経外科学(8305 Neurosurgery) ⇒ NEU

注:前置詞(at, on, of など)の頭文字は使わない。

## 学問分野(2)

- 学問分野を表すアルファベット三文字が、他の分野と重なった場合の対応
  - 例：幾何学(4702 **Geometry**)と地質学(5004 **Geology**)は、同じアルファベット(**GEO**)となるため、**a, e, i, o, u**を避けて、幾何学(**Geometry**)を**GMT**、地質学(**Geology**)を**GLG**とする。
  - 例：日本文学(3101 Japanese Literature)と日本語学(3202 Japanese Linguistics)のように、最初の語が全く同一の場合は、同一の語からは1文字のみとする。ただし、それでも重なる場合は、**a, e, i, o, u**を避ける。
    - 日本文学(3101 Japanese **L**iterature) ⇒ **JLT**
    - 日本語学(3202 Japanese **L**inguistics) ⇒ **JLN**

## 学問分野(3)

- 科目が複数の学問分野にまたがる場合の対応
  - 最も比重が置かれている分野を選択する。
  - 例： 商学(3902)が60%，会計学(3903)が40%ならば，商学を選択する。
- 総合的・基礎的な科目は，細目レベル(例：機械材料・材料力学，流体工学，熱工学)ではなく，分科レベル(例：機械工学)を選択することも認める。

# 学問分野(4)

- 語学科目の対応

- 外国語教育の専門科目は, 外国語教育(3205 Foreign language education: FLE)に分類される。
- ただし, 語学の科目は数が多いことから, 外国語の習得を目的とした科目は, 下記のように, 独自の分類を行う。

英語(English: ENG), ドイツ語(German: GER),  
フランス語(French: FRE), 中国語(Chinese: CHI)など

# 学部の番号と科目の位置づけ

- 学部の番号

1:神学部, 2:文学部, 3:社会学部, 4:法学部, 5:経済学部,  
6:商学部, 7:政策学部, 8:文化情報学部, 9:理工学部,  
10:生命医科学部, 11:スポーツ健康科学部, 12:心理学部,  
13:グローバル・コミュニケーション学部,  
14:グローバル地域文化学部,  
20:全学共通教養教育科目, 30:自由科目

- 科目の位置づけ

- 1:専門教育科目
- 2:全学共通教養教育科目
- 3:自由科目

# 科目の難易度と通し番号

- 科目の難易度
  - 0: 大学補習レベル
  - 1: 大学1年次レベル
  - 2: 大学2年次レベル
  - 3: 大学3年次レベル
  - 4: 大学4年次レベル
  - 5: 大学院入門レベル
- 通し番号は, 01, 02, 03のように, 順に付けていく。

# 教育プログラムの体系化への活用



# カリキュラム・ツリーの作成

- 学問分野ごとに，各難易度の科目数を記入する。

カリキュラム・ツリー作成用紙（作成例）

5：大学院入門レベル



4：大学4年次レベル



3：大学3年次レベル



2：大学2年次レベル



1：大学1年次レベル



0：大学入学前レベル



学問分野



# カリキュラム・ツリーの分析(1)

- 「哲学・倫理学」(PHE)の分野は、大学1年次レベルから大学4年次レベルまで、科目が**バランスよく配置**されている。その上、補習が必要な学生のために、大学入学前レベルの科目も提供されている。
- 「言語学」(LIN)の分野は、**大学2年次レベルの科目が存在しない**。このため、新たな科目の開設が必要だと思われる。
- 「文学一般」(LIG)の分野は、**大学2年次レベルの科目が過多**になっている。これらの科目の見直しが必要かもしれない。

## カリキュラム・ツリーの分析(2)

- 「美学・芸術諸学」(ASA)の分野は、大学3年次レベルの科目のみが、**他の科目との関連なく提供**されている。
- 「心理学」(PSY)の分野は、「教育学」(EDU)の大学3年次レベルの科目の学修を豊かにする目的で、大学1年次～2年次レベルの科目が提供されている。
- 「会計学」(ACC)と「理論経済学」(ECT)の分野の科目は、お互いに**補強し合う形**で提供されている。

# カリキュラム・ツリー作成における注意事項

- 隣接する学問分野を隣同士に配置する。
  - 矢印で相互の関係性を明示するため。
- 専門教育科目のみではなく、全学共通教養科目も含めて、カリキュラム・ツリーを作成する。
  - ただし、全学共通教養教育科目は学科・専攻ごとに認めている履修モデルの科目のみを含める。
- カリキュラム・ツリーの分析結果を踏まえて、科目ナンバリングを適宜修正してもよい。
  - とはいえ、分析結果で明らかになった問題を見えにくくする、という意味ではない。
  - なお、全学共通教養教育科目のナンバリングも修正可能とする。

# ワークショップのスケジュール

# 同志社大学FDワークショップ日程表

- 12:30~13:00 会場受付
- 13:00~13:30 開会挨拶  
講演「科目ナンバリングの作成」(弘前大学・田中正弘)
- 13:30~13:40 質疑応答
- 13:40~14:50 グループワークⅠ(司会:田中 正弘)
- 14:50~15:00 休憩(10分)
- 15:00~16:10 グループワークⅡ(司会:田中 正弘)
- 16:10~16:40 グループ発表(司会:田中 正弘)
- 16:40~17:00 総括討論
- 17:00 終了・解散

ご清聴ありがとうございました。